



イザヤとライブラリー

比 嘉 良 夫

次男イザヤは1971年イギリスのスタウトン (Staughton) の小学校に入学いたしました。首里で幼稚園の修了を待たずに移り、学期制のちがいですぐ小学校に入学となり、私達夫婦は(大丈夫かな?)と心配いたしました。なにしろ英語は全く教えていましてしたので……。「ボク英語は大丈夫だよ、A、B、C は全部おぼえたんだモン」といってスタウトンの学校に勇ましく入学いたしました。長男イサクはスタウトン・ジュニアに転校、ロンドンの郊外、アン王女が軍隊生活を送った由緒のある、お城の形をした兵営のすぐ隣りにある学校でした。

さて、1月14日はイザヤの誕生日です。「今日はIsaiah の Birthday です、すこしお待ちなさい！」とベイリー先生にいわれました。皆が帰った後、ベイリー先生はイザヤをつれてライブラリーを案内し本の借り方、返し方、それからサインの仕方など、文字通り手をとって教えて下さいました。言葉もよく通じない外国人の子供に……。

そしてイザヤはダイナソー (Dinosaur)、恐竜の絵本を借り、胸を張って2階バスに乗り、シドニー通の家に帰ってきました。不思議の国アリスで有名なルイス・キャロルの家が近くにあり、晩年のチャールズ・ディッケンスがこよなく愛した町ギルフオードです。

「今日ネ、ボク、ライブラリーにいったよ！そしてネ、ダイナソーの本を借りたんだ！」翌日には、もう、その本を返しに行きました。次はムーン・マン (Moon Man) という本を借りてきました。その次の日にはこの本を返して又、別の本を借りてきました。イザヤは自分でサインして借りることができた事を喜こんで威張っていました。

自分でサインすることによって得られた自由、社会に認められた独立した人格、それに伴う可能性と責任を、理解ではなく、味わったのが小学校一年生のお誕生日の日です。

自国の文化を“誇り”をもって、しかも経済的に、これを伝えていくイギリス人の智恵の深さに私達夫婦は畏敬の念をもちました。こうしてイザヤは毎月、雑誌を買うこともせず、本も買わずに豊かな心の満足を与えられました。勿論、雑誌や書物について、すこしも欲求不満などというものはありませんでした。

北海道よりも北の国にあるこの国の寒く、暗い冬もようやく終りを告げるイースターのお休みを利用してスコットランドに旅立ちました。ダイナソー（恐竜）の影響でしょうか？ 私達家族は遠くネス川（River Ness）のほとりにありますインバネス（Inverness）を訪れ、ネス湖探検を試みました。

こゝはダイナソー（恐竜）の生存が信じられている世界的に有名なネス湖（Loch Ness）の玄関です。驚きました事は、イギリスの汽車に図書室がありました！ 長い長いロンドンからの汽車の旅に、文子も、イサクもイザヤも週刊誌や本、文庫本など一冊も持つことなく、それでも本をみたり、チェスを楽しんだり2時間以上もかゝる優雅な食堂車で窓外の雪景色を見ながら食事をいただき、鹿の姿に驚きの声をあげました。

イザヤが現在も化石に興味をもち、二年後アメリカでユタ州の恐竜の化石を手に入れることができました事は、彼の人生で最初に訪れたスタウトンでのライブラリーの影響かもしれません。帰国の日に、イギリスから沖縄まで、イザヤは大きな化石をもち帰りました。

「何か、面白い、有名なイギリスの本でも買って帰ろうか？」と尋ねると、ビックリして、

「どうして、そんなの？ ライブラリーに行けば、いつでも借りれるのに……」と答えたので、今もって、イギリスの書物は吾が家のライブラリーに殆んどありません。

とにかく、沖縄に戻り、しばらくして「おとうさん、オキナワの学校はどうもオカシイよ！」

「どうしたんだい？」「あのね、今日、ボク、本を借りようと思って、学校のライブラリーに行ったら先生に（この本を借して下さい）とお願いしたらネ、その先生、何といったと思う？」

「さあネ、君の頭をなでて（よく勉強するヨイ子だね！）とほめたでしょう？」

「ところが大ちがい。（ダメダメ！）といって本を貸さないよ、それもゼツタイに！」

「オカシイ、Libraryは本を貸すところでしょう？ なのに（本を貸さない）というのはワカラナイね」、「そうでしょう！ ボクも、わからないよ、そしてね（君のクラスは本の返し方が学校で一番ワルイから、本を借さない！）というの、ボク黙って戻ってきちゃった」と悲しそうな顔をしていました。

それから間もなくして私達家族はカルフォルニア州のパサデイナ（Pasadena）に参り、イザヤは再び外国の学校に転校しました。こゝではスクール・ライブラリー（School Library）やコウミュニティ・ライブラリー（Community Library）をよく利用しました。ときには、谷をこえて向うの山の中腹にあるライブラリーから本を借りてきて、休みに入った時には家族でドライブを兼ねて本を返しに行きました、そしてその距離の大きさにびっくりしたものです。

たずねると、スクール・バスに乗って、お友達（帰りみち）に、一緒に行って、借りて来たとのことでした。こゝでイザヤはI.D.カードの威力を覚えました。

サン・ラファエル（San Rafael）の学校からグローバー・クリーブランド（Grover Cleveland）の学校に進みました。こゝでは成績の良い生徒に、独自のテーマを与えて調査、研究して論文を書くカリキュラム（Curriculum）がありました。勿論、他のクラスメートと一緒にクラスで勉強することもあります。2週間を一区切りとして、先生からテーマをもらい、図書館や博物館を訪れて論文を書きあげます。イザヤに与えられたテーマの一つは「クリストファー・コロンブス（Christopher Columbus）について」でした。建国200年のお祝いの最中でしたから、それにふさわしいテーマです。タイトルを書き、論文を書き、引用文献、参考書、著者名や引用箇所を明示し、自分の意見を述べて仕上げるのです。こうしたカリキュラムを“Resources”とよんでいました。小学校5年生の時でした。

ライブラリーが教育に果たす役割りの大きさについて、イギリスやアメリカの小学校の中でのそれと、わが国でのLibraryに対する位置づけの貧しさは親にとっても、さびしいものです。教育の面が前にすぎて文化の面が影の中で見えなくなっているからでしょうか？

（教育学部教授・化学）

沖縄研究資料（郷土資料）の収集について

昭和51年度の沖縄研究資料の複写収集は、本学教官我部政男氏のご尽力によるところが大きく、費用については文部省配当の格差は正費によるものである。

国立国会図書館蔵「沖縄関係新聞切抜」、「山下久四郎文庫奄美大島関係文書」、「佐喜真興英遺稿集」等貴重な資料を複写することができました。神山政良氏蔵「沖縄返還運動資料上・下巻」は神山氏等が精力的に取り組んできた返還運動の記録であり、時の米国政府高官や日本政府宛に発送した陳情書等、また、沖縄返還要請国民大会の資料等、生（ナマ）の資料の集積である。

佐喜真興英遺稿「琉球研究」、「霊の島々」は、我部氏が遺族の許可を得て複写したものである。直筆原稿で、まだ公表されていない資料である。

「外務省外交記録文書」は、昭和51年5月に公表された機密外交文書のマイクロフィルム化である。これは米国の戦後の対日政策に関する文書で、米国で解禁になり公開されたものである。この中には、「琉球占領報告1946—1948」が入っている。この一連の文書の他に、国会図書館では対日極秘文書の収集を企画し、沖縄統治資料も含めて、昭和53年度から実施されると聞いておる。本学図書館では、昭和47年度から49年度までに、「米国民政府裁判所記録」等米国の沖縄統治に関する資料約50万枚を複写収集してきた。この他に1945年から1952年の日本本土占領期間中の文書だけで約3,000万ページに及ぶといわれているので、この収集だけでも相当の時間と莫大な金額を要するものと思われる。

「山下久四郎文庫」は奄美大島の糖業に関する資料であり、先に（昭和50年度）複写入手した同沖縄糖業資料と併せて、原本は所蔵者の山下久四郎氏より県立図書館へ寄贈された。

J.T.Watkins: Okinawa papers Deposited はスタンフォード大学政治学部教授のワトキンス博士が沖縄滞在中に収集した、終戦直後の新聞切抜きその他政治、経済、社会、教育を内容とするリーフレット等の貴重な資料のマイクロフィルムであるが、この講入については、本学教授比嘉幹郎氏のご協力をいただいた。

その他昭和50年度に複写した全資料のマイクロフィルムも購入することができた。県庁所蔵の「琉球政府関係文書1951—1972」もマイクロフィルム化した。

この度も多くの方々のご好意とご協力により貴重な資料の複写を行うことができた。こゝに所蔵機関名と個人名、および所蔵資料名を掲載して謝意を表します。また、本学助教授我部政男氏は資料収集に全面的にご協力くださいました。記して感謝申し上げます。

複写収集資料目録

資料名	所蔵機関名
山下久四郎文庫奄美大島関係文書	県立図書館
通航一覧 他	国立公文書館内閣文庫
琉球藩諸条約 他	外務省外交史料館
琉球評定所記録 1～65分冊	東京大学法学部
沖縄教育 明治32年～昭和8	東京教育大学附属図書館
沖縄関係新聞切抜 1947—1970 他	国立国会図書館
大阪朝日鹿兒島九州版 他	沖縄県史料編集所
沖縄返還運動資料 上・下巻	神山政良氏
佐喜真興英遺稿集	

外務省外交記録文書 94リール 外務省外交史料館
 Disposition for the Records of the 加藤泰守氏
 U.S. Civil Administration of the Ryukyu
 Islands 1945—1972
 Okinawa papers Deposited 6リール James T. Watkins
 琉球政府関係文書 1951～1972 60リール

(1) 国立公文書館内閣文庫蔵

通航一覧 一～五 (5分冊)	墨海山筆	日本唐往来
通航一覧統輯 (琉球関係)	雪堂燕遊草	琉球人参府之部 (御觸書)
沖縄県職員録 明治17～18年	華夷変態	琉球王呈簡及執政復書 (蠶余一得)
百石善書 (南島志)	琉球人 (憲政類典)	沖縄関係地図 34点
琉球漫録	琉客談記 (文鳳堂雜纂)	“ “ 1点
公文録 (官吏進退)	漂到琉球国記	
視聽草 (琉球関係)	百石爛 (琉球事略)	

(2) 外務省外交史料館蔵

琉球藩諸條約	類聚琉球入貢諸例
琉球藩関係書類 明治8～15年	類聚琉球入貢諸例 (一)～(七) (七分冊)

(3) 東京大学法学部蔵

琉球評定所記録 1～65分冊

(4) 東京教育大学附属図書館蔵

沖縄教育 明治32～42年	沖縄教育 昭和5～8年
沖縄教育 大正3年、12年、13年	

(5) 国立国会図書館蔵 (新聞文庫蔵)

沖縄関係新聞切抜 1947年～1970年10月(28分冊)	沖縄関係新聞切抜	労働問題 1961～1970
“ “ 核兵器 1954、毒ガス 1970	“ “	社会事情 1959～1970
“ “ 沖縄の経済 1962～1970	“ “	米軍関係 1959～1970
“ “ 教育、医療 1952～1970		

(6) 沖縄県史料編集所蔵

大阪朝日 鹿児島九州版 昭和10年～16年 (7分冊)	大阪朝日新聞附録九州朝日 大正14年～昭和3年 “ “ 昭和4年～昭和9年
朝日新聞 沖縄版 昭和17年、18年 (2分冊)	公文綴 明治41年 多良間村
“ “ 昭和19年1月～7月	公文綴 2号 明治41年 多良間村
“ “ 昭和19年8月～12月	丑年惣頭帳
“ “ 昭和20年1月～5月	上原氏家譜
“ “ 昭和20年6月～8月	向裔氏家譜
“ “ 昭和20年9月～10月	

(7) 神山政良氏蔵

沖縄返還運動資料 上・下巻
 内容 (抄録)

A, 国民大会資料—沖縄諸島祖国復帰国民大会およびかけ関東地方沖縄県出身者有志 日時 1953年2月

28日 場所 共立講堂一他

- B, 東京、沖縄県人会の再発足と総会資料 C, 沖縄県人団体の陳情書類
D, 神山政良「80年の歩み」後編
E, 神山政良編「年表—沖縄問題と在京県人の動き—1868年—1966年」

(8) 佐喜真興英遺稿

琉球研究 (佐喜真興英) 霊の島々 (佐喜真興英)

(9) 外務省外交史料館蔵

外務省外交記録文書 94リール

この中には「琉球占領報告 1946—1948」(Summation of United states Army Military Government Activities in the Ryukyu Islands) も含まれている。

これは、昭和51年5月31日、第1回公開から、今年6月第3回公開の三度にわたり、外務省が公開した機密外交資料の中、第1回公開の分のマイクロフィルムのコピーである。

(10) 総理府沖縄開発庁蔵(加藤泰守前事務次官蔵)

Disposition for the Records of the U.S.Civil Administration of the Ryukyu Islands. 1945—1972

(11) マイクロフィルム資料

- 外務省外交史料館蔵「琉球所屬問題」他 9リール
国立国会図書館蔵「琉球処分関係資料」他 9リール
日比谷図書館蔵「第1回沖縄県議会決議録」他 2リール
青森県立図書館蔵 笹森儀助文書「大島郡雑記」他 1リール
祭魚堂文庫日本常民文化研究所蔵「八重山島取調書」他 1リール
山形県立図書館蔵「越越方の記上・下」他 1リール
内閣文庫蔵「中山世譜」他 24リール
早稲田大学図書館蔵 大隈文書「沖縄関係」22リール
東京教育大学図書館蔵「沖縄祭歌」他 3リール
防衛庁戦史室蔵「沖縄戦関係資料」28リール
山下久四郎文庫蔵「沖縄関係及奄美大島関係糖業資料」20リール
東大史料編纂所蔵「琉球冠船記録」他 19リール
鎌倉芳太郎氏蔵「歴代宝案」他 5リール
国学院大学図書館蔵「沖縄日報」他 3リール
南風原公民館蔵「皇方竿入帳」他 6リール
東恩納文庫蔵「真境名安興文庫」他 21リール

————— 主要百科事典紹介〔その1〕 —————

ドイツ：—

Brockhaus Enzyklopädie, Band 1—20 (1966—1974), Band 21—Karten (1975),
Band 22—23—Ergänzungen (1975—1976), 17 Aufl. Wiesbaden, Brockhaus.

ブロックハウスは現代的百科事典の代表と考えられるが、フリードリッヒ・ブロックハウス(1772—1823)は創案者でなく、改訂経営者であった。この事典はもとゴットヘルプ・レーベルが「家庭辞典」を発行してきたが、死亡したので、その権利を買って、1808年に第6巻を出版して完成したのに始ま

った。彼はその企画を尊敬して、第2版から改訂と改良を加えてゆき、小項目主義の国民百科事典とした。

この母国の情報を多くとり入れた国民百科事典という思想は小項目主義の便利さと相まって、ヨーロッパの百科事典編集に、大きい影響をおよぼした。アメリカで「アメリカナ百科辞典」(1829)、と「新インタナショナル百科辞典」(1902)、イギリスの「チェンバーズ百科辞典」(1860)、ロシアのエフロンとブロックハウス共同の「大百科事典」、オランダの「ウインクラー・プリンス百科事典」(1870)、それに「ラルッス百科事典」にもその影響を与え、「マイヤー百科事典」も例外ではないと思う。

ブロックハウスは好評のうちに、第二次大戦中に第15版まで改訂した(1928~34、1935補遺版)。ブロックハウスはオランダで出版をしていたドイツ人で、1811年にアルテンブルグ、1817年または翌年にライプチヒに移転した。この出版の本場で哲学者ショーペンハウア、歴史家ラウマー、東洋学で詩人のリュッケルトなど多くの大学者の出版をして、一流出版社となった。大戦後ライプチヒを脱出して、ウィースバーデンで第16版を12冊で1952~60年に出版した。しかし「大ブロックハウス」の実現を期して、第17版の「ブロックハウス百科事典」を刊行した。(弥吉光長著百科事典の整理学 P137 - 138)

図書館事情

<図書館研修会>

広島大学附属図書館事務部長藤田善一氏の講義を沖縄大学図書館協議会員を対称に風樹館で開催した。この研修会はアジア財団援助資金によるものである。

日時：7月5日(火) 10:00~12:00

新しい図書館構想の視点

7月6日(水) 10:00~12:00

大学図書館をめぐる諸問題

7月6日(水) 13:00~15:00

大学図書館をめぐる諸問題、選書と選書体制

7月6日(水) 15:20~17:00

N. C. R. の改訂について

<来訪者>

日米友好委員会のマールダー氏(Dr. William Mulder)が9月14日(水) 2時 図書館を訪れ、伊江館長及び各係長と日米交友基金の趣旨について懇談し、図書館を見学した。

<第105回図書館運営委員会>

日時：9月20日(火) 16:00~17:00

場所：会議室(プレハブ2階)

審議事項：(1) 昭和52年度図書館予算について (2) 外国雑誌の選定について

報告事項：(1) 昭和52年度外国雑誌費の文部省配当について

(2) 次期館長候補者について

(3) 参考基本図書、学生必読図書の選択リスト提出状況について

(4) 沖縄研究資料収集調査委員会の設置について

(5) その他

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第10巻 第1号 [通巻第37巻]

昭和52年10月25日 発行人 平良恵仁 沖縄県那覇市首里当蔵町3丁目1番地

電話 34-0101 (内線338)